

本展示に際し、多大なご協力をいただいた「救う会富山」の皆様方には、日ごろから拉致問題解決に向けて活動を継続され、そのご労苦に対し深く敬意を表する次第です。

市長メッセージ

北朝鮮による日本人拉致問題は、我が国の主権及び国民の生命と安全にかかわる重大な問題であると同時に、基本的人権の侵害という国際社会全体の普遍的問題であります。拉致された方々の貴重な未来、多くの夢を断絶し、家族とのかけがえのない時間を引き裂く、人権、人道上の極めてゆゆしき事件であることは、言うまでもありません。

これまでも政府は、この問題を最重要課題として、国の責任において主体的に取り組み、解決を目指すとしています。政府による取り組みはもちろんのこと、私たち一人ひとりが拉致問題に対する関心と認識を深めていくことが大切であり、それが解決に向けた大きな力となります。

このことから、国民の間に広く拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題についての関心と認識を深めるため、毎年12月10日～16日までの1週間は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」と定められており、啓発活動に注力されております。本市においても、この啓発週間にあわせて本展示会を市役所多目的コーナー及び大山会館にて順次開催するほか、拉致被害者の救出を願うシンボル「ブルーリボン」にちなんで、富山城天守閣のブルーライトアップを行い、多くの市民の皆さんに、改めて拉致問題について関心と認識を深めていただく機会としております。

拉致被害者のご家族は、一刻も早く愛する家族を救出したいとの切実な思いを抱いて活動されておられますが、残念ながら未だ多くの方々が北朝鮮に取り残されている状況であり、富山県内にも6名の特定失踪者を含む、拉致の可能性が排除できない行方不明者が20名お出でになります。また、隣県の新潟県において当時13歳で拉致被害に遭われた横田めぐみさんは、令和6年10月に還暦を迎えられました。拉致から今日までの長い時間が経過し、拉致被害者家族もご高齢となられる中、ご存命中に再会が叶わなかったご家族の無念を推察すると、胸が強く締め付けられる思いです。

この問題を風化させてはなりません。「拉致被害者を取り戻すまで、私たちは絶対にあきらめない。」という市民の皆様一人ひとりの声が、力強い支えとなりますので、共に声を上げ続けていきましょう。

富山市長 藤井 裕久